

【ビジネスモデル分科会】
REDD+の現状と今後の予定

2017年12月19日（火）REDD+プラットフォーム総会

ビジネスモデル分科会の今後の方向性①

■ 情報提供

- REDD+に関する基本的な解説は一巡。
- 今後は、最新情報の共有に加え、「REDD+のメリット」にフォーカスした情報提供が一層求められる
 - 支払い単価
 - 事業組成のプロセス
 - 事業に係るリスク / 等
- 一方で、REDD+の裾野を拡大する観点から、基礎解説を定期的に行き続けることも重要。REDD+の理解度や関心のポイントによってターゲットを3段階程度に分類し、それぞれのニーズに応じた情報を提供していく。
- 実施にあたっては、他の分科会と連携。
- 加盟企業の皆様には、情報周知や企画提案等についてご協力をお願いしたい。

ビジネスモデル分科会の今後の方向性②

■ 具体的な REDD+事業の組成

- 民間参画を一層促進するためには、抽象的な議論を脱し、できるだけ検討を具体化していく必要がある。
 - どの国が有望か。
 - 事業の中心となるプロポーネントはどこか。
 - どの程度の資金、あるいはどのような種類の技術・サービスが必要とされているか。
- 例えば GCF の下での REDD+実施を念頭に、具体的なプロポーザルの作成を進めてみるのも一案。

今後の予定（案）

- 分科会開催時期：未定
- テーマ（案）：
 - GCF-REDD+の基本解説
 - 民間企業向けに、GCFのREDD+ルールを解説（現在の資金運用状況、支払い単価、途上国の事業ポテンシャル、その他留意事項）。
 - 泥炭地回復プロジェクトの紹介（予定）
 - 日本森林技術協会様、日本工営様より、インドネシアにおける民間参画を念頭に置いたプロジェクトについてご紹介いただく。